

クラス	TU307	担当教員	齋藤 一晴
テーマ	対話と共生のための授業づくり ―歴史学、社会科教育がめざすもの―		
著書・論文	【著書】『中国歴史教科書と東アジア歴史対話 一日中韓 3 国共通歴史教材づくりの現場から―』花伝社、2008		
研究課題等	【論文】「中国の歴史教育と日中授業交流」歴史科学協議会『歴史評論』7月号、2017 「東アジアにおける共同歴史教材の現在 ―自国史の問い直しと歴史教育―」歴史学研究会『第4次 現代歴史学の成果と課題』第3巻、績文堂出版、2017 「歴史学、歴史教育の現在 ―歴史を学ぶ楽しさを国境を越えて考える―」東京歴史科学研究会『歴史を学ぶ人々のために 現在をどう生きるか』岩波書店、2017		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：歴史学・歴史教育・社会科教育・教科書・多国間共同歴史教材・多国間授業交流・歴史対話			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b> 本ゼミは、社会科教育専門演習Ⅰと、社会認識教育演習Ⅰ・日本史演習Ⅰの合併開講科目になります。</p> <p><b>【授業内容】</b> ゼミでは2つのことに取り組みます。「共通テーマ」と「個人テーマ」です。前者は、ヨーロッパや東アジアで開発が進む共同歴史教材の作成過程、活用事例から、既存の教科書や授業にどのような新しい内容、教授法を提供できるのか、輪読や現地調査を通じて全員で検討します。また、歴史認識や主義主張の異なる他者とどのような対話、「共有」が可能なのかを、国内だけでなく、国境を越えて考えます。 後者は、各自の問題意識にもとづいた研究テーマを個人報告のスタイルで深めてもらいます。以下の現3年生の「個人テーマ」が示しているように、テーマの内容は基本的に自由です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日米の歴史認識の相違を両国の歴史教育や歴史教科書から考える…原爆認識の相違など</li> <li>②日本の教科書制度の現状と課題…よりよい教科書制度とはどのようなものか</li> <li>③子どもたちの生きづらさとは…その現状と歴史的背景について</li> </ol> <p><b>【授業計画】</b> 3年生：前期…共通テーマに関する輪読と報告／後期…個人テーマの報告と卒業論文のテーマ検討 4年生：前期…共通テーマに関する討論と卒業論文の構想報告／後期…卒業論文の執筆・卒論報告会</p> <p><b>【その他】</b> ゼミに所属する2年間のうち、希望者は韓国もしくは中国への現地調査、授業交流に参加します。現地調査では、史跡や博物館の見学、証言者の証言を聞く、現代韓国もしくは中国を知るといったことを行います。授業交流では、日中もしくは日韓共通のテーマについて両国の教員が各国の生徒に授業を行い、授業内容や生徒の反応に、日本のそれらとどのような違いがあるのかを現地の教員や高校生と直接話し合います（通訳あり）。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p><b>【学生に求めるもの】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①専門性を高めたいと思っている人</li> <li>②現代社会に放っておけないことや人がいて、それらに真正面から向き合おうと志す人</li> <li>③自らの専門分野と関わる現場に行き、自分の足で歩き、目で見て、耳で聞き、全身で感じ考えられる人</li> <li>④出会いを大切に、常に他者から学ぼうとする人</li> <li>⑤ゼミ以外にサブゼミの運営やゼミの枠をこえて後輩たちへのアドバイスを積極的に行える人</li> </ol> <p><b>【学生に求めないもの】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①2年生までの成績・②知識量・③「個人テーマ」が齋藤の専門に近いかどうか・④教員になるかどうか</li> </ol> <p><b>【ゼミでは行わないこと】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①資格試験対策</li> </ol> <p><b>【今後やってみたいこと】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①他ゼミとの合同企画・②夏合宿や冬合宿などの合宿企画（国内）・③卒論報告会</li> </ol> <p>※まだ開講2年目の若いゼミです。全員でゼミをつくっていく、そういう気持ちの学生を待っています。</p>			